

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692700053		
法人名	社会福祉法人成光苑		
事業所名	グループ・ホーム 舞夢 (舞夢みなと1丁目)		
所在地	京都府舞鶴市字桑飼上小字深田1088番地1		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700053&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700053&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人理念である、「地域にあってよかった」といっていただける施設づくりを目指し、地域貢献事業や地域交流に力を入れている</li> <li>・地域福祉力強化のための「介護員養成講座2級」や「基金訓練」、外国人支援として「つぼみの会(日本語勉強会)」を実施</li> <li>・地域防災拠点として「災害時避難指定場所」として舞鶴市と協定締結</li> <li>・小規模施設の特色を生かした「きめ細やかなサービス」提供</li> </ul> <p>◎健康管理を徹底し、生活基盤の安定に努めています。 ◎余暇活動、外出の実施を積極的に行っています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域にあって良かった」と言って貰える事業所を目指すと共に利用者が日々平穏な生活を継続していく為に、地域資源を活用しながら地域の地蔵盆や小学校の運動会や発表会などに利用者と一緒に参加し交流しています。舞鶴市の委託事業として「ふれあいサロン」をボランティアの協力を得て開催したり、地域の防災拠点として「災害時非難指定場所」になるなど、市や地域との協力関係を築いています。事業所の夏祭りや餅つき、クリスマス会に地域の人や家族の参加を得て開催したり、老人会のボランティアによる窓拭きや草引きなど様々な支援も年々増えてきています。季刊誌「舞夢タイム」は事業所の取り組みや利用者の様子などを写真入りで分かり易く編集し、地域の全戸に回覧してもらい、ホームの取り組みを地域に知ってもらうよう情報を発信しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は実施できているが、これに基づいてグループホームのサービスを実施できているか検証できていない。	理念の「まごころと思いやりを大切に」「地域にあってよかったと言ってもらえる施設づくり」と掲げ、毎朝唱和し、名札の裏にも明記して意識し支援できるよう努めています。理念に沿って利用者一人ひとりの個別ケアに重きを置くと共に地域の方との関わりを大切に取組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや餅つき等の行事の際に施設に来ていただき、交流している。	回覧板で地域の行事を知り、利用者と地蔵盆などに参加したり、小学校の卒業式やしめ縄づくり、給食の試食などに参加しています。老人会のボランティアによる事業所の窓拭きや草ぬき、盆踊りの指導等に来てもらい、ボランティアの方々は年々増え交流の機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人が運営している地域包括支援センターが中心となり、認知症サーポーター養成を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設からの情報提供や苦情報告を行うとともに、地域からの情報を共有し参加している。	会議は市担当者や民生委員、元市議員、老人会代表などをメンバーとし隔月に開催しています。現況報告やそれぞれの立場で情報提供し意見交換をしています。市から農閑期のふれあいサロンへの協力依頼があり、委託事業として受けて実施しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営協議会メンバーに参画いただき、連携を図っている。	市担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、議事録を持って行ったり、介護保険の更新時に情報を得たり、電話で相談する事も多く協力関係を築いています。又、市の介護相談員も月2回受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	職員は法人の身体拘束に関する研修を受講し伝達研修をして周知しています。玄関は安全のため家族の了解を得て施錠していますが、利用者は居室から自由に庭へ出入りすることが出来ています。施錠の弊害については職員会議で話し合っており、可能な限り戸外に出掛けられるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修実施し学機械を確保している。		

グループ・ホーム 舞夢（みなと1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の後見人を通して、成年後見制度等の情報を得て、学習や活用方法を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を活用し、ご利用者の希望を得ている。 意見箱を設置し、ご家族のご意見を聞ける体制をとっている。	家族交流会や面会時、電話などで家族の意見や要望を聞いています。利用者の日頃の様子が知りたいとの希望があり、家族によっては面会時にノートを作って意見交換したり、月毎の請求時に生活の様子を記入して伝えるよう改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議内での意見具申の機会を設けているとともに、各職員の希望を聞ける機会（個別面接）を設けている。	日頃から職員が意見を出し易い雰囲気作心がけユニット会議や職員会議、個人懇談時などで職員の意見を聞いています。職員は「利用者の外出機会を多く持ちたい」等、行事に関する意見などを起案書で提出しており、話し合い実施に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を基づき評価している。 年一回自己申告書を各職員に作成させて、改善の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修プログラムを中心とした育成制度を導入している。 外部研修への出席も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他施設交流を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に利用者の不安や悩みを傾聴し、利用者理解を進めるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアアセスメントシートを作成し必要な支援の見極めに活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念に基づき、家事等できることは自力行っていただける様にし、介護者からの一方的な支援にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご利用者の買い物や外出・通院などを依頼し、ご本人の生活を一緒に支えてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、ご家族から今までの交友関係を確認なし、できる範囲で交流できる環境づくりをしている。	知人や友人が訪ねて来られた時は居室でゆっくり話してもらえよう配慮しています。自宅が気になる方やよく行っていた店に買い物に行きたい方などは、職員が付き添い一緒に行っています。お盆にお寺さんに来てもらい自室の仏壇にお参りして貰う方もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性が強く、個々人で過ごされる方が多い。ご利用者が孤立しない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人や語が即から問い合わせがあれば可能な限り協力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活の中で希望や意向の把握に努めている。	入居時に利用者・家族との面談で生活歴や暮らし方の希望などの意向や思いを聞き、把握できるよう努めています。把握が困難な方は、職員が日常の関わりの中で得た情報をユニット会議で共有したり、家族に聞くこともあり、把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接及び入所後の関係の中から情報を得て、在宅生活の延長に近づける様努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している 家族は話を聞いたり、用紙に記入してもらうなどして情報提供に協力いただいている。	利用者・家族の意向を反映した介護計画を立て、担当職員が日々の記録などを参考に3ヶ月毎にモニタリングを行っています。利用者や家族の意向は事前に聞き、看護師や栄養士など関係者の参加を得てサービス担当者会議を開催し、見直しに繋がっています。介護計画の見直しに繋げ易いよう、計画に基づいたモニタリングの実施や日々の記録が行えるよう、様式の変更を検討しています。	介護計画に沿って日々の記録やモニタリングが実施できるよう様式を検討されていますので実現されることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者個々のの日常の出来事を記載し、情報共有しているが、ケアへの実践にはつなげられていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実践できていない		

グループ・ホーム 舞夢（みなと1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り時に地域ボランティアを招き、地域学生と希望されるご利用者が一緒になり練習するなど実施しているが、通年投資手の活動が行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞きかかりつけ医を決定している。	契約時に希望のかかりつけ医を継続できる事を説明した上で、殆どの方が協力医に変更しています。専門医やかかりつけ医への受診は家族が同行し、日々の様子や看護サマリー等の情報を医師に渡しています。協力医は2週間に1回往診があり、緊急時は24時間対応可能な体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	次節内の看護師と常時、連絡・相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族から入院中の情報提供をしていただくとともに医療機関へ出向き本人の様子確認や医療機関からの情報収集、隊員調整の協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っている。	契約時にホームでは医療行為は行えない事など、他施設への移行も含めて検討することを伝えていきます。現在、家族の希望を受け、看取り支援の対象者があり、何かあれば家族が泊まったり、看護師と24時間連絡が取れる体制を整え、職員の不安にも配慮しながら、家族の意向に沿って支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期の研修会を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している	消防署立会いの下、施設全体で昼夜想定での訓練を年2回利用者と共にしています。夜間想定では避難誘導を中心に行い、避難にかかる時間や職員が自宅から駆けつけるために必要な時間を調査しています。施設は地域防災拠点として災害時避難場所に指定されており、地域との相互協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応ができるようどりよくしている。	法人研修で職員全員が接遇について学んでいます。利用者には丁寧過ぎず節度を持って敬語を使い、名字で呼ぶよう努めています。排泄時の声掛けに配慮したり、希望があれば同性介助で対応しています。不適切な言動があれば、その場でなぜいけないかの理由も含めて説明しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞いたり、自己決定できるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそえる範囲でできるかぎり自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方にはしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている	昼・夜食の献立は利用者の希望を聞いて管理者が立て栄養士にアドバイスをもらっています。週3回、利用者と共に買物に行き、皮剥きや食材を切るなどの準備や洗い物などをしてもらっています。誕生日には希望を聞いて出前を取ったり、バイキングや回転寿司などの外食や弁当を持って花見などに行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を基に食事提供を行い、栄養バランスに留意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方、介助が必要な方がいるが、援助している		

グループ・ホーム 舞夢（みなと1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援に向けた努力を行っている。自立支援とはどうすべきなのかを話し合う必要がある。	排泄は時間を決めて誘導したり、利用者のサインを見逃さないよう支援しています。各居室にはトイレがあり、利用者の安心感に繋がっており、昼間は出来るだけ布パンツで過ごしてもらっています。利用者に合わせた適切な声掛けに努め、失敗が減るなどの改善もみられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別な希望が無いことが多く、職員側で決めていることが多い。希望があれば実施している。	入浴は午後から支援していますが、希望により午前や毎日の入浴も可能で、1対1でゆっくりと入ってもらっています。柚子風呂や気の合った利用者同士と一緒に入る方、好みの石鹸を使用する等、利用者に合わせて気持ち良く入浴できるよう支援しています。入浴を拒む方は、スタッフが交代して声掛けする等、工夫しながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理のもと服薬援助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを個別に見出そうと努力しているが、なかなか先にすすまない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として実施しているが、個別では行えていない	利用者は日々敷地周辺を散歩したり、玄関前のベンチで外気浴などをしています。地域の地藏盆や小学校の運動会や発表会などに出掛けています。季節毎に桜やチューリップ、ふじ、紅葉などを時には弁当を作って見に行き、季節の移り変わりを楽しんでいます。	

グループ・ホーム 舞夢（みなと1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方、には持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施しているが、もっと生活環を持たせる工夫が必要である。	リビングは大きな窓で明るく、暖色系の間接照明で温かさが感じられ、利用者が月毎に作ったちぎり絵の作品が壁に飾られています。利用者はテーブルを囲んだり、壁際や廊下に置かれたソファに座るなど気に入った場所で寛いでいます。対面式のキッチンでは利用者が料理をし易い高さにしたり、室温や湿度にも気を配り、テレビの音は会話が聞える程度に調整し過ぎ易いよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しているが、改善する余地は多くある	居室はベッドやトイレ、洗面台などが設え付けてあり、入口に手作りの暖簾が掛けられ自室が分かり易いよう配慮しています。利用者は好みの色のカーテンを取り付けたり、自宅で使っていた整理ダンスやテレビ、電話、大切な仏壇等を置き、家族の写真などを飾っています。部屋で編み物や小物作り等をされる利用者もあり寛いで過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できている		